

課程認定を受けている課程を有する学科等の各段階における到達目標

＜管理栄養学科＞（認定課程：中一種免（家庭））

（１）各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	【1】教職に関する科目を通して、教員という仕事について生徒の立場ではなく教師の立場から理解する姿勢をつかむ。【2】家庭科の基礎となる、生活科学および家政学の概念、生活を科学することの概念や理念を理解する。【3】教職に関する科目・その他の必修科目・教科に関する科目の、1年次配当の科目を確実に履修・修得する。【4】管理栄養士に関する専門科目が多いと思われるが、食生活だけでなく、他領域に関する科目も不得意分野を作らないよう、ただ合格ラインクリアを目指すのではなく、領域の理解のために全内容の理解と修得を目指す。
	後期	【1】ほぼ前期に同じ。前期の【1】～【4】を継続のこと。【2】教職に関する科目は上級学年になると同時間に他の教職科目や専門必修科目が入っていることが多いので、1年次に確実に修得する。【3】次年度より副免教科履修を考えている者は、1年後期で受講の意志を固める。
2年次	前期	【1】家庭科という教科についての理解を深め、さらに各指導法の授業にて、家庭科や道徳、特別活動などの学習指導案を作成できるようになる。【2】2年次配当の科目を確実に修得する。【3】1年次で学習した教職関連知識および専門知識を踏まえ、家庭科の教員として、家庭科で教える内容とは、と意識して考えられるようになる。【4】副免を希望する者は、4年間を見据えた計画を立てる。【5】必要に応じて教育関係ボランティア等に参加する。
	後期	【1】中学家庭科の学習内容を自発的に学習する。また、小学校と高等学校の家庭科の内容や、学校種間の連携について理解しておく。【2】学習指導案を書き、授業の構成や教材を考え実施できるようになる。【3】2年次終了～3年次初めの内諾にそなえ、中学校での教育実習に対して意志を固める。【4】教員採用試験について調べ、準備を始める。
3年次	前期	【1】専門科目および調理実習など、選択科目や必修科目の確実な修得を目指す。【2】4年次開講科目以外の免許に必要な科目は、3年次終了時までですべて単位が修得できているように計画的にすすめる。【3】後期に実施される介護等体験に備え、特別支援教育や社会福祉について、教科書や関連の資料や情報にふれて理解を深める。
	後期	【1】教職免許の取得に関する科目が必要単位数として充足しているか確認し、不足があれば後期中に修得する。【2】卒業研究の課題や知識を教職にも生かせるように意識して専門学習を進める。
4年次	前期	【1】教育実習を通して、教員という職業と内容、中学生の現状、教職の社会的立場、自分の将来と教職について考える。【2】教員として教育実習に取り組むと同時に、実践力をつける。【3】卒業研究を通して専門性を高め、家庭科との関連についても考える。【4】教員採用情報取得を密にし、教員採用試験について対策を講じる。【5】栄養教諭も併せて取得希望の者は、小学校実習時に小学校家庭科のしくみと栄養教諭との関係についても意識して実習を深める。
	後期	【1】後期教育実習の者は前期【1】・【2】を実践する。【2】卒業研究に関連して前期【2】の継続。【3】教員採用試験の可否にかかわらず、家庭科で扱う全領域に対して苦手な分野がある場合はその補充学習を行う。4月までに自信を持って教えられるよう自主的な学習の場を持つ。（自主学习、習い事、資料読み、訓練等）

<管理栄養学科> (認定課程：高一種免(家庭))

(1) 各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	【1】教職に関する科目を通して、教員という仕事について生徒の立場ではなく教師の立場から理解する姿勢をつかむ。【2】家庭科の基礎となる、生活科学および家政学の概念、生活を科学することの概念や理念を理解する。【3】教職に関する科目・その他の必修科目・教科に関する科目の、1年次配当の科目を確実に履修・修得する。【4】管理栄養士に関する専門科目が多いと思われるが、食生活だけでなく、他領域に関する科目も得意分野を作らないよう、ただ合格ラインクリアを目指すのではなく、領域の理解のために全内容の理解と修得を目指す。
	後期	【1】ほぼ前期に同じ。前期の【1】～【4】を継続のこと。【2】教職に関する科目は上級学年になると同時間に他の教職科目や専門必修科目が入っていることが多いので、1年次に確実に修得する。【3】次年度より副免許教科履修を考えている者は、1年後期で受講の意志を固める。
2年次	前期	【1】家庭科という教科についての理解を深め、さらに各指導法の授業にて、家庭科の学習指導案を作成できるようになる。【2】2年次配当の科目を確実に修得する。【3】1年次で学習した教職関連知識および専門知識を踏まえ、家庭科の教員として、家庭科で教える内容とは、と意識して考えられるようになる。【4】副免許を希望する者は、4年間を見据えた計画を立てる。【5】年間を通じ、専門科目および被服実習など、選択科目や必修科目の確実な修得を目指す。【6】必要に応じて教育関係ボランティア等に参加する。
	後期	【1】高等学校家庭科の学習内容を自発的に学習する。合わせて小学校・中学校での家庭科の内容や高等学校との連携について理解する。【2】学習指導案を書き、授業の構成や教材を考え実施できるようになる。【3】2年次終了～3年次初めの内諾にそなえ、高等学校への教育実習に行く意志と自覚を固める。【4】教員採用試験について調べ、準備を始める。
3年次	前期	【1】専門科目および実験実習など、選択科目や必修科目の確実な修得を目指す。【2】4年次開講科目以外の免許に必要な科目は、3年次終了時までにはすべて単位が修得できているように計画的にすすめる。【3】特別支援教育を希望する者は、社会福祉について教科書や関連の資料、情報にふれて理解を深める。
	後期	【1】教職免許の取得に関する科目が必要単位数として充足しているか確認し、不足があれば後期中に修得する。【2】卒業研究の課題や知識を教職にも生かせるように意識して専門学習を進める。
4年次	前期	【1】教育実習を通して、教員という職業と内容、高校生の現状、教職の社会的立場、自分の将来と教職について考える。【2】教員として教育実習に取り組むと同時に、実践力をつける。【3】卒業研究を通して専門性を高め、家庭科との関連についても考える。【4】教員採用情報取得を密にし、教員採用試験について対策を講じる。【5】栄養教諭も併せて取得希望の者は、小学校実習時に小学校家庭科のしくみと栄養教諭との関係についても意識して実習を深める。
	後期	【1】後期教育実習の者は前期【1】・【2】を実践する。【2】卒業研究に関連して前期【2】の継続。【3】教員採用試験の合否にかかわらず、家庭科で扱う全領域に対して苦手な分野がある場合はその補充学習を行う。4月までに自信を持って教えられるよう自主的な学習の場を持つ。(自主学习、習い事、資料読み、訓練等)

<管理栄養学科> (認定課程：栄教一種免)

(1) 各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	<p>栄養教諭は、栄養士の免許を有することが基礎資格となるため、栄養士必須科目の履修計画を立てる。栄養教諭は、児童生徒の望ましい食習慣の形成のため、栄養に関する専門性と教育に関する資質を併せ有する教育職員として、栄養及び教育の専門性を十分発揮することが期待される。食に関する指導と学校給食の管理を職務とするため、教師となるための基本的資質・力量を身につけ、目標達成のための計画を立てる。1年次前期は専門教育科目の「専門基礎分野の科目」および教職に関する科目の「教職論」、「教育本質論」を確実に修得する。幅広い教養と考える力を身につける。</p>
	後期	<p>後期配当の専門教育科目で「栄養士必修科目」の「専門基礎分野の科目」および教職に関する科目の「発達と学習」、「教育制度と社会」を確実に修得する。生涯発達の概念や発達のメカニズムと子どもを取り巻く人間関係の重要性について理解し、日本の教育制度の原理と社会との関わりについて理解を深める。前期で学んだ理論を実習・実験を通して確認・修得し、実践力を養う。</p>
2年次	前期	<p>前期配当の専門教育科目で栄養士必須科目の「専門基礎分野と専門分野の科目」および教職に関する科目の「カリキュラム論」、「道徳の指導法」、「特別活動の指導法」、「教育の方法と技術」を確実に修得する。栄養士としての専門知識や、教師になるための教育の意義、概要等を学び、適切な指導ができるよう知識と技術を身につける。</p>
	後期	<p>後期配当の専門教育科目で栄養士必須科目の「専門基礎分野と専門分野の科目」を履修し、理論と実際の基礎を修得し、実験・実習を通して知識を深め、技術を身につけ、実践力を養う。</p>
3年次	前期	<p>前期配当の専門教育科目で栄養士必須科目の「専門基礎分野と専門分野の科目」および栄養に係る教育に関する科目の「学校栄養教育論」を確実に修得し、栄養教諭としての使命や食に関する指導についての理論と方法を修得する。</p>
	後期	<p>後期配当の専門教育科目と栄養に係わる教育に関する科目の「学校栄養指導法」、教職に関する科目の「生徒指導」、「教育相談」、「事前及び事後指導（栄養教諭）」を履修する。4年次の「栄養教育実習」の準備として、前期までに学習した栄養士必須科目内容も踏まえ、栄養教育実習の意義や目的、心構え、執務記録、授業計画、実習評価方法などについて学び、各自模擬授業を通して、指導法と実践力を身につける。</p>
4年次	前期	<p>4年次は、栄養教育実習、教員採用試験、卒業研究に積極的に取り組む。前期配当の専門科目および卒業研究を確実に遂行する。栄養教育実習では、教育現場において、自らが実践することにより、観察・参加・実習等を体験し、教育者としての態度、技術を体得し、実地修練を通して指導法や実践力、コミュニケーション力を身につける。</p>
	後期	<p>卒業研究を完成させるとともに、残りの専門科目と教職実践演習を修得する。栄養教育実習後には報告会に参加し、学生間の情報交換、実習の反省、問題点の整理を行い、今後への課題の明確化と総仕上げとしての教職実践演習に取り組む。</p>

＜生活環境デザイン学科＞（認定課程：中一種免（家庭））

（１）各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	【1】教職に関する科目を通して、教員という仕事について生徒の立場ではなく教師の立場から理解する姿勢をつかむ。【2】家庭科の基礎となる、生活科学および家政学の概念、生活を科学することの概念や理念を理解する。【3】教職に関する科目・その他の必修科目・教科に関する科目の、1年次配当の科目を確実に履修・修得する。【4】主にアパレル・インテリア・建築の分野を決めると思われるが、各分野の基礎科目はそれぞれ家庭科の衣生活・住生活・環境等の領域に関わるのでできるだけ偏らずに不得意分野を作らないよう習得する。【5】教職に就いた後のことを考え、不得意分野を出来るだけ作らないよう、全ての科目を単位取得を目的とするのではなく、全分野の理解と修得を目指して満点が取れるよう目指す。
	後期	【1】ほぼ前期と同じ。前期の【1】～【4】を継続のこと。【2】教職に関する科目は上級学年になると同時間に他の教職科目や専門必修科目が入っていることが多いので、一年次に確実に修得する。【3】次年度より副免教科履修を考えている者は、1年後期で受講の意志を固める。
2年次	前期	【1】家庭科という教科についての理解を深め、さらに各指導法の授業にて、家庭科や道徳、特別活動などの学習指導案を作成できるようになる。【2】2年次配当の科目を確実に修得する。【3】1年次で学習した教職関連知識および専門知識を踏まえ、家庭科の教員として、家庭科で教える内容とは、と意識して考えられるようになる。【4】副免を希望する者は、4年間を見据えた計画を立てる。【5】必要に応じて教育関係ボランティア等に参加する。
	後期	【1】中学家庭科の学習内容を自発的に学習する。合わせて小学校・高等学校での家庭科の内容や連携について理解する【2】学習指導案を書き、授業の構成や教材を考え実施できるようになる。【3】2年次終了～3年次初めの内諾にそなえ、中学校に教育実習に行く意志を固める。【4】教員採用試験について調べ、準備を始める。
3年次	前期	【1】専門科目および調理実習など、選択科目や必修科目の確実な修得を目指す。【2】4年次開講科目以外の免許に必要な科目は、3年次終了時までにはすべて単位が修得できているように計画的にすすめる。【3】後期に実施される介護等体験に備え、特別支援教育や社会福祉について、教科書や関連の資料や情報にふれて理解を深める。
	後期	【1】教職免許の取得に関する科目がすべて必要単位数として充足しているか確認し、不足があれば後期中に修得する。【2】卒業研究の課題や知識を教職にも生かせるように意識して専門学習を深める。
4年次	前期	【1】教育実習を通して、教員という職業と内容、中学生の現状、教職の社会的立場、自分の将来と教職について考える。【2】教員として教育実習に取り組むと同時に、実践力をつける。【3】卒業研究を通して専門性を高め、家庭科との関連についても考える。【4】教員採用情報取得を密にし、教員採用試験について対策を講じる。
	後期	【1】後期教育実習の者は前期【1】・【2】を実践する。【2】卒業研究に関連して前期【2】の継続。【3】教員採用試験の合否にかかわらず、家庭科で扱う全領域に対して苦手な分野がある場合はその補充学習を行う。4月までに自信を持って教えられるよう自主的な学習の場を持つ。（自主学习、習い事、資料読み、訓練等）

＜生活環境デザイン学科＞（認定課程：高一種免（家庭））

（１）各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	【1】教職に関する科目を通して、教員という仕事について生徒の立場ではなく教師の立場から理解する姿勢をつかむ。【2】家庭科の基礎となる、生活科学および家政学の概念、生活を科学することの概念や理念を理解する。【3】教職に関する科目・その他の必修科目・教科に関する科目の、1年次配当の科目を確実に履修・修得する。【4】主にアパレル・インテリア・建築の分野を決めると思われるが、各分野の基礎科目はそれぞれ家庭科の衣生活・住生活・環境等の領域に関わるのでできるだけ偏らずに不得意分野を作らないよう習得する。【5】教職に就いた後のことを考え、不得意分野を出来るだけ作らないよう、全ての科目を単位取得を目的とするのではなく、全分野の理解と修得を目指して満点が取れるよう目指す。
	後期	【1】ほぼ前期に同じ。前期の【1】～【4】を継続のこと。【2】教職に関する科目は上級学年になると同時間に他の教職科目や専門必修科目が入っていることが多いので、一年次に確実に修得する。【3】次年度より副免教科履修を考えている者は、1年後期で受講の意志を固める。
2年次	前期	【1】家庭科という教科についての理解を深め、さらに各指導法の授業にて、家庭科の学習指導案を作成できるようになる。【2】2年次配当の科目を確実に修得する。【3】1年次で学習した教職関連知識および専門知識を踏まえ、家庭科の教員として、家庭科で教える内容とは、と意識して考えられるようになる。【4】副免を希望する者は、4年間を見据えた計画を立てる。【5】年間を通じ専門科目の選択科目や必修科目の確実な修得を目指す。【6】必要に応じて教育関係ボランティア等に参加する。
	後期	【1】高等学校家庭科の学習内容を自発的に学習する。合わせて小学校・中学校での家庭科の内容や高等学校との連携について理解する。【2】学習指導案を書き、授業の構成や教材を考え実施できるようになる。【3】2年次終了～3年次初めの内諾にそなえ、高等学校への教育実習に行く意志と自覚を固める。【4】教員採用試験について調べ、準備を始める。
3年次	前期	【1】専門科目および調理実習など、選択科目や必修科目の確実な修得を目指す。【2】4年次開講科目以外の免許に必要な科目は、3年次終了時まですべて単位が修得できているように計画的にすすめる。【3】特別支援教育を希望する者は、社会福祉について教科書や関連の資料、情報にふれて理解を深める。
	後期	【1】教職免許の取得に関する科目がすべて必要単位数として充足しているか確認し、不足があれば後期中に修得する。【2】卒業研究の課題や知識を教職にも生かせるように意識して専門学習を深める。
4年次	前期	【1】教育実習を通して、教員という職業と内容、高校生の現状、教職の社会的立場、自分の将来と教職について考える。【2】教員として教育実習に取り組むと同時に、実践力をつける。【3】卒業研究を通して専門性を高め、家庭科との関連についても考える。【4】教員採用情報取得を密にし、教員採用試験について対策を講じる。
	後期	【1】後期教育実習の者は前期【1】・【2】を実践する。【2】卒業研究に関連して前期【2】の継続。【3】教員採用試験の合否にかかわらず、家庭科で扱う全領域に対して苦手な分野がある場合はその補充学習を行う。4月までに自信を持って教えられるよう自主的な学習の場を持つ。（自主学习、習い事、資料読み、訓練等）

＜国際言語コミュニケーション学科＞（認定課程：中一種免（英語））

（１）各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	外国人教員による英語の授業を通してリーディングおよびライティングを含めた4技能の基礎を身につける。また、“教えのプロ”に先立つ“学びのプロ”として、自律的な英語学習習慣を確立する。英語の多様化についても学び、国際コミュニケーションの手段としての英語に対する柔軟な態度を養う。さらに、教育の基礎理論を学ぶことにより、教育の本質と理念及び教育の対象となる児童生徒の発達と学習上の特徴を理解する。
	後期	外国人教員による英語の授業を通してリーディングおよびライティングを含めた4技能を高める。また、英語劇の練習や上演などを通して自然で明瞭な発音と非言語コミュニケーションについての知識や技能を獲得する。さらに、前期に引き続いて教育の基礎理論を学ぶことにより、教職の意義、教員の役割、職務内容、教育制度などについて理解する。
2年次	前期	主として外国人教員による英語の授業を通して、リーディングおよびライティングを含めた4技能を一層向上させる。また英語コミュニケーション科目群や英語文化圏科目群の履修を通して、英語の仕組みや音声、言語・非言語コミュニケーションの仕組みなどを知り、英語圏の社会や文化についても理解を深める。さらに、学校における教育課程（カリキュラム）の構造について理解すると同時に、情報機器の利用法や教材の活用法を学ぶことにより、効果の高い指導法を身につける。
	後期	主として外国人教員による英語の授業を通して、リーディングおよびライティングを含めた4技能に習熟する。また英語コミュニケーション科目群や英語文化圏科目群の履修を通して、英語学習者の心理や異文化への適応などについて知り、英語圏の社会や文化についても一層理解を深める。英語科と道徳および特別活動の指導法については、教育実習等実際の教育現場での授業が実施できるようになる。
3年次	前期	課外活動を含むさまざまな学習機会を利用し、英語を使って授業を行うのに支障のない英語コミュニケーション能力を身につける。また専門科目の履修や卒業論文準備科目であるゼミでの演習などを通して、英語や英語圏文化、異文化コミュニケーションなどに関する専門知識の基礎を身につける。さらに、英語科の指導法についてより高度な知識・技能を身につけるとともに、生徒指導と進路指導の理論と方法についても理解する。また、必須科目の介護等体験を通して、さまざまな人の生き方を認識し、人と関わる中で重要な姿勢や視点を経験的に学ぶ。
	後期	課外活動を含むさまざまな学習機会を効果的に利用し、英語を使って授業を行うのに十分な英語コミュニケーション能力を身につける。また、専門科目の履修やゼミでの演習などを通して、英語や英語圏文化、異文化コミュニケーションなどに関する専門性を一層高める。さらに、カウンセリングの基礎知識、基本技術を学ぶことにより、教育相談の意義と方法についても理解する。
4年次	前期	卒業研究を通して、英語とその背景にある社会や文化、また異文化コミュニケーションなどに関する科学的理解の態度を身につける。また、教育実習の事前指導及び実習の経験を踏まえ、効果的な指導法や児童生徒とのコミュニケーション技術等の研究を行うことによって、教職の現場における実践的な指導ができるようになる。
	後期	卒業研究を完成させる過程を通して、英語によるコミュニケーションに関する科学的理解の集大成を旨ざるとともに、教育実習終了後の反省や、実践形式の演習等を通して、教育の現場では何が教師に求められ、どのように行動しなければならないのかを理解する。また、自身の指導力の実態を把握し、教職に対する考え方等について総括できるようになる。

＜国際言語コミュニケーション学科＞（認定課程：高一種免（英語））

（１）各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	外国人教員による英語の授業を通してリーディングおよびライティングを含めた4技能の基礎を身につける。また、“教えのプロ”に先立つ“学びのプロ”として、自律的な英語学習習慣を確立する。英語の多様化についても学び、国際コミュニケーションの手段としての英語に対する柔軟な態度を養う。さらに、教育の基礎理論を学ぶことにより、教育の本質と理念及び教育の対象となる児童生徒の発達と学習上の特徴を理解する。
	後期	外国人教員による英語の授業を通してリーディングおよびライティングを含めた4技能を高める。また、英語劇の練習や上演などを通して自然で明瞭な発音と非言語コミュニケーションについての知識や技能を獲得する。さらに、前期に引き続いて教育の基礎理論を学ぶことにより、教職の意義、教員の役割、職務内容、教育制度などについて理解する。
2年次	前期	主として外国人教員による英語の授業を通して、リーディングおよびライティングを含めた4技能を一層向上させる。また英語コミュニケーション科目群や英語文化圏科目群の履修を通して、英語の仕組みや音声、言語・非言語コミュニケーションの仕組みなどを知り、英語圏の社会や文化についても理解を深める。さらに、学校における教育課程（カリキュラム）の構造について理解すると同時に、情報機器の利用法や教材の活用法を学ぶことにより、効果の高い指導法を身につける。
	後期	主として外国人教員による英語の授業を通して、リーディングおよびライティングを含めた4技能に習熟する。また英語コミュニケーション科目群や英語文化圏科目群の履修を通して、英語学習者の心理や異文化への適応などについて深く理解し、英語圏の社会や文化についても幅広く学ぶ。英語科と特別活動の指導法については、教育実習等実際の教育現場での授業が実施できるようになる。
3年次	前期	課外活動を含むさまざまな学習機会を利用し、英語を使って授業を行うのに支障のない英語コミュニケーション能力を身につける。また専門科目の履修や卒業論文準備科目であるゼミでの演習などを通して、英語や英語圏文化、異文化コミュニケーションなどに関する専門的な理解を得る。さらに、英語科の指導法についてより高度な知識・技能を身につけるとともに、生徒指導と進路指導の理論と方法についても理解する。
	後期	課外活動を含むさまざまな学習機会を効果的に利用し、英語を使って授業を行うのに支障のない実践的な英語コミュニケーション能力を幅広く身につける。また、専門科目の履修やゼミでの演習などを通して、英語や英語圏文化、異文化コミュニケーションなどに関する専門性を一層高める。さらに、カウンセリングの基礎知識、基本技術を学ぶことにより、教育相談の意義と方法についても理解する。
4年次	前期	卒業研究を通して、英語とその背景にある社会や文化、また異文化コミュニケーションなどに関する科学的理解の態度を身につける。また、教育実習の事前指導及び実習の経験を踏まえ、効果的な指導法や児童生徒とのコミュニケーション技術等の研究を行うことによって、教職の現場における実践的な指導ができるようになる。
	後期	卒業研究を完成させる過程を通して、英語によるコミュニケーションに関する科学的理解の集大成を旨ざるとともに、教育実習終了後の反省や、実践形式の演習等を通して、教育の現場では何が教師に求められ、どのように行動しなければならないのかを理解する。また、自身の指導力の実態を把握し、教職に対する考え方等について総括できるようになる。

＜表現文化学科＞（認定課程：中一種免（国語））

（１）各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	教員としての活動の基礎となる広い教養を身につけるとともに、国語教育の基礎となる国語学・国文学・漢文学（以下、国語関連分野）の基本事項を修得する。書写・書道の技術も1年次に身につけておくことが望まれる。また、“教えのプロ”に先立つ“学びのプロ”として、自律的な国語関連分野の学習習慣を確立する。さらに、教育の基礎理論を学ぶことにより、教育の本質と理念及び教育の対象となる生徒の発達と学習上の特徴を理解する。
	後期	教員としての活動の基礎となる広い教養を身につけるとともに、国語教育の基礎となる国語関連分野の基本事項を修得する。書写・書道の技術も1年次に身につけておくことが望まれる。さらに、教育の基礎理論を学ぶことにより、教職の意義、教員の役割、職務内容などについて学習し、教育に関する社会的・制度的・経営的事項を理解する。
2年次	前期	国語教育の基礎となる国語関連分野に関する基本的知識を修得するとともに、専門科目に属する国語関連分野の科目を履修し、背景となる日本文化等の理解も含めて、国語という教科に関する発展的な知識を身につける。さらに、教育の現場で求められる各種指導法のうち、国語科及び特別活動に関わる基礎的内容について理解する。また、学校における教育課程（カリキュラム）の構造について理解する。
	後期	国語教育の基礎となる国語関連分野に関する基本的知識を修得するとともに、専門科目に属する国語関連分野の科目を履修し、背景となる日本文化等の理解も含めて、国語という教科に関する発展的な知識を身につける。また、情報機器の利用法や教材の活用法を学ぶことにより、より効果の高い指導法を身につける。さらに、道徳や特別活動の指導法について修得する。
3年次	前期	専門科目の履修や卒業論文準備科目の演習を通して、国語関連分野に関する専門的な知識を身につける。さらに、国語科の指導法についてより高度な知識・技能を身につけるとともに、生徒指導の理論と方法についても理解する。また、必須科目の介護等体験を通して、さまざまな人の行き方を認識し、人と関わる中で重要な姿勢や視点を経験的に学ぶ。
	後期	専門科目の履修や卒業論文準備科目の演習を通して、国語関連分野に関する専門的知識を一層高める。さらに、国語科の指導法について実践的な知識・技能を身につけるとともに、カウンセリングの基礎知識、基本技術を学ぶことにより、教育相談の意義と方法についても理解する。
4年次	前期	卒業研究を通して、国語関連分野とその背景にある日本文化に関する科学的理解の態度を身につける。また、教育実習の事前指導及び教育実習の経験を通して、効果的な指導法や生徒とのコミュニケーション技術等の研究を行うことによって、教職の現場における実践的な指導ができるようになる。
	後期	卒業研究を完成させる過程を通して、国語関連分野に関する科学的理解の集大成を旨とするとともに、教育実習終了後の反省や、実践形式の演習等を通して、学校現場では何が教師に求められ、どのように行動しなければならないのかを理解する。また、自身の指導力の実際を把握し、教職に対する考え方等について総括できるようになる。

<表現文化学科> (認定課程：高一種免(国語))

(1) 各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	教員としての活動の基礎となる広い教養を身につけるとともに、国語教育の基礎となる国語学・国文学・漢文学（以下、国語関連分野）の基本事項を修得する。また、“教えのプロ”に先立つ“学びのプロ”として、自律的な国語関連分野の学習習慣を確立する。さらに、教育の基礎理論を学ぶことにより、教育の本質と理念及び教育の対象となる生徒の発達と学習上の特徴を理解する。
	後期	教員としての活動の基礎となる広い教養を身につけるとともに、国語教育の基礎となる国語関連分野の基本事項を修得する。さらに、教育の基礎理論を学ぶことにより、教職の意義、教員の役割、職務内容などについて学習し、教育に関する社会的・制度的・経営的事項を理解する。
2年次	前期	国語教育の基礎となる国語関連分野に関する基本的知識を修得するとともに、専門科目に属する国語関連分野の科目を履修し、背景となる日本文化等の理解も含めて、国語という教科に関する発展的な知識を身につける。さらに、教育の現場で求められる各種指導法のうち、国語科及び特別活動に関わる基礎的内容について理解する。また、学校における教育課程（カリキュラム）の構造について理解する。
	後期	国語教育の基礎となる国語関連分野に関する基本的知識を修得するとともに、専門科目に属する国語関連分野の科目を履修し、背景となる日本文化等の理解も含めて、国語という教科に関する発展的な知識を身につける。また、情報機器の利用法や教材の活用法を学ぶことにより、より効果の高い指導法を身につける。さらに、特別活動の指導法について修得する。
3年次	前期	専門科目の履修や卒業論文準備科目の演習を通して、国語関連分野に関する専門的な知識を身につける。さらに、国語科の指導法についてより高度な知識・技能を身につけるとともに、生徒指導の理論と方法についても理解する。
	後期	専門科目の履修や卒業論文準備科目の演習を通して、国語関連分野に関する専門的知識を一層高める。さらに、国語科の指導法について実践的な知識・技能を身につけるとともに、カウンセリングの基礎知識、基本技術を学ぶことにより、教育相談の意義と方法についても理解する。
4年次	前期	卒業研究を通して、国語関連分野とその背景にある日本文化に関する科学的理解の態度を身につける。また、教育実習の事前指導及び教育実習の経験を通して、効果的な指導法や生徒とのコミュニケーション技術等の研究を行うことによって、教職の現場における実践的な指導ができるようになる。
	後期	卒業研究を完成させる過程を通して、国語関連分野に関する科学的理解の集大成を旨とするとともに、教育実習終了後の反省や、実践形式の演習等を通して、学校現場では何が教師に求められ、どのように行動しなければならないのかを理解する。また、自身の指導力の実際を把握し、教職に対する考え方等について総括できるようになる。

<人間関係学科> (認定課程：中一種免(社会))

(1) 各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	中学校社会の教員免許状取得のための教職課程において、何をどのように修得しようとするのか、普遍的な目標とともに自分なりの特殊な目標を設定し、それら目標を達成するための履修計画を立てることができる。
	後期	「教職に関する科目」および「教科に関する科目」それぞれについて、内容上基礎的な位置づけをもつであろう科目を――“必修”指定の科目および“選択必修”指定の科目を――重点的に履修する。修得単位数の上では、「その他の必修科目」も含めて(選択)必修指定の科目のうちおよそ三分の一を(約20単位を)修得する。
2年次	前期	「教職に関する科目」および「教科に関する科目」それぞれについて、内容上基礎的な位置づけをもつであろう科目を重点的に履修する。修得単位数の上では、「その他の必修科目」も含めて(選択)必修指定の科目のうちおよそ三分の二を(約40単位を)修得する。
	後期	「教職に関する科目」および「教科に関する科目」それぞれについて、内容上基礎的な位置づけをもつであろう科目を重点的に履修し終える。修得単位数の上では、「教育実習」と「教職実践演習」を除いて(選択)必修指定の科目のすべてを(60単位を)修得する。
3年次	前期	「教職に関する科目」および「教科に関する科目」それぞれについて、内容上発展的な位置づけをもつであろう科目を重点的に履修する。修得単位数の上では、「その他の必修科目」も含めて「教職に関する科目」および「教科に関する科目」それぞれについての最低修得単位数を(66単位を)修得する。
	後期	「教職に関する科目」および「教科に関する科目」それぞれについて、内容上発展的な位置づけをもつであろう科目をさらにいっそう重点的に履修する。平板な“学校知”に堕しがちな「社会科」の既存の体系と、知的探究の所産として獲得される社会科学の認識と、これら両者の間の懸隔が何故に生じることになるのかについての洞察の初歩を学び取ることができる。教育実習に向けての事前準備の基礎固めができる。《遅くともこの時期までに最低修得単位数を満たす。》
4年次	前期	「教育実習」を中心に据えて、それまでに学んだ事柄を実践的に活かし働かせることができる。“教育現場”に孕まれている複雑性・複層性と魅力とを――生きた人間関係をめぐる可能性を無邪気に称揚することに終始するのではなく、その身に帯びることになりがちな深刻なる保守性を問題化することを通してようやく可視化されてくるところのそれを――捉えた上で、自らめざすべき教員像をかたちづることができる。
	後期	「教職実践演習」を中心に据えて、それまでに学んだ事柄を実践的に活かし働かせることができる。

<人間関係学科> (認定課程：高一種免 (地理歴史))

(1) 各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	高等学校地理歴史の教員免許状取得のための教職課程において、何をどのように修得しようとするのか、普遍的な目標とともに自分なりの特殊な目標を設定し、それら目標を達成するための履修計画を立てることができる。
	後期	「教職に関する科目」および「教科に関する科目」それぞれについて、内容上基礎的な位置づけをもつであろう科目を――“必修”指定の科目および“選択必修”指定の科目を――重点的に履修する。修得単位数の上では、「その他の必修科目」も含めて(選択)必修指定の科目のうちおよそ三分の一を(約20単位を)修得する。
2年次	前期	「教職に関する科目」および「教科に関する科目」それぞれについて、内容上基礎的な位置づけをもつであろう科目を重点的に履修する。修得単位数の上では、「その他の必修科目」も含めて(選択)必修指定の科目のうちおよそ三分の二を(約40単位を)修得する。
	後期	「教職に関する科目」および「教科に関する科目」それぞれについて、内容上基礎的な位置づけをもつであろう科目を重点的に履修し終える。修得単位数の上では、「教育実習」と「教職実践演習」を除いて(選択)必修指定の科目のすべてを(50単位を)修得する。
3年次	前期	「教職に関する科目」および「教科に関する科目」それぞれについて、内容上発展的な位置づけをもつであろう科目を重点的に履修する。修得単位数の上では、「その他の必修科目」も含めて「教職に関する科目」および「教科に関する科目」それぞれについての最低修得単位数を(68単位を)修得する。
	後期	「教職に関する科目」および「教科に関する科目」それぞれについて、内容上発展的な位置づけをもつであろう科目をさらにいっそう重点的に履修する。平板な“学校知”に堕しがちな「地理歴史科」の既存の体系と、知的探究の所産として獲得される歴史学的・地理学的認識と、これら両者の間の懸隔が何故に生じることになるのかについての洞察の初歩を学び取ることができる。教育実習に向けての事前準備の基礎固めができる。《遅くともこの時期までに最低修得単位数を満たす。》
4年次	前期	「教育実習」を中心に据えて、それまでに学んだ事柄を実践的に活かし働かせることができる。“教育現場”に孕まれている複雑性・複層性と魅力とを――生きた人間関係をめぐる可能性を無邪気に称揚することに終始するのではなく、その身に帯びることになりがちな深刻なる保守性を問題化することを通してようやく可視化されてくるところのそれを――捉えた上で、自らめざすべき教員像をかたちづくることことができる。
	後期	「教職実践演習」を中心に据えて、それまでに学んだ事柄を実践的に活かし働かせることができる。

<人間関係学科> (認定課程：高一種免 (公民))

(1) 各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	高等学校公民の教員免許状取得のための教職課程において、何をどのように修得しようとするのか、普遍的な目標とともに自分なりの特殊な目標を設定し、それら目標を達成するための履修計画を立てることができる。
	後期	「教職に関する科目」および「教科に関する科目」それぞれについて、内容上基礎的な位置づけをもつであろう科目を――“必修”指定の科目および“選択必修”指定の科目を――重点的に履修する。修得単位数の上では、「その他の必修科目」も含めて(選択)必修指定の科目のうちおよそ三分の一を(約20単位を)修得する。
2年次	前期	「教職に関する科目」および「教科に関する科目」それぞれについて、内容上基礎的な位置づけをもつであろう科目を重点的に履修する。修得単位数の上では、「その他の必修科目」も含めて(選択)必修指定の科目のうちおよそ三分の二を(約40単位を)修得する。
	後期	「教職に関する科目」および「教科に関する科目」それぞれについて、内容上基礎的な位置づけをもつであろう科目を重点的に履修し終える。修得単位数の上では、「教育実習」と「教職実践演習」を除いて(選択)必修指定の科目のすべてを(44単位を)修得する。
3年次	前期	「教職に関する科目」および「教科に関する科目」それぞれについて、内容上発展的な位置づけをもつであろう科目を重点的に履修する。修得単位数の上では、「その他の必修科目」も含めて「教職に関する科目」および「教科に関する科目」それぞれについての最低修得単位数を(68単位を)修得する。
	後期	「教職に関する科目」および「教科に関する科目」それぞれについて、内容上発展的な位置づけをもつであろう科目をさらにいっそう重点的に履修する。平板な“学校知”に堕しがちな「公民科」の既存の体系と、知的探究の所産として獲得される社会科学的・社会哲学的認識と、これら両者の間の懸隔が何故に生じることになるのかについての洞察の初歩を学び取ることができる。教育実習に向けての事前準備の基礎固めができる。≪遅くともこの時期までに最低修得単位数を満たす。≫
4年次	前期	「教育実習」を中心に据えて、それまでに学んだ事柄を実践的に活かし働かせることができる。“教育現場”に孕まれている複雑性・複層性と魅力とを――生きた人間関係をめぐる可能性を無邪気に称揚することに終始するのではなく、その身に帯びることになりがちな深刻なる保守性を問題化することを通してようやく可視化されてくるところのそれを――捉えた上で、自らめざすべき教員像をかたちづることができる。
	後期	「教職実践演習」を中心に据えて、それまでに学んだ事柄を実践的に活かし働かせることができる。

<心理学科>（認定課程：中一種免（社会））

（1）各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	中学校社会の教員免許状取得のための教職課程において、何をどのように修得しようとするのか、普遍的な目標とともに自分なりの特殊な目標を設定し、それら目標を達成するための履修計画を立てることができる。
	後期	「教職に関する科目」および「教科に関する科目」それぞれについて、内容上基礎的な位置づけをもつであろう科目を――“必修”指定の科目および“選択必修”指定の科目を――重点的に履修する。修得単位数の上では、「その他の必修科目」も含めて（選択）必修指定の科目のうちおよそ三分の一を（約20単位を）修得する。
2年次	前期	「教職に関する科目」および「教科に関する科目」それぞれについて、内容上基礎的な位置づけをもつであろう科目を重点的に履修する。修得単位数の上では、「その他の必修科目」も含めて（選択）必修指定の科目のうちおよそ三分の二を（約40単位を）修得する。
	後期	「教職に関する科目」および「教科に関する科目」それぞれについて、内容上基礎的な位置づけをもつであろう科目を重点的に履修し終える。修得単位数の上では、「教育実習」と「教職実践演習」を除いて（選択）必修指定の科目のすべてを（60単位を）修得する。
3年次	前期	「教職に関する科目」および「教科に関する科目」それぞれについて、内容上発展的な位置づけをもつであろう科目を重点的に履修する。修得単位数の上では、「その他の必修科目」も含めて「教職に関する科目」および「教科に関する科目」それぞれについての最低修得単位数を（66単位を）修得する。
	後期	「教職に関する科目」および「教科に関する科目」それぞれについて、内容上発展的な位置づけをもつであろう科目をさらにいっそう重点的に履修する。平板な“学校知”に堕しがちな「社会科」の既存の体系と、知的探究の所産として獲得される社会科学の認識と、両者の間の懸隔が何故に生じることになるのかについての洞察の初歩を学び取ることができる。 教育実習に向けての事前準備の基礎固めができる。《遅くともこの時期までに最低修得単位数を満たす。》
4年次	前期	「教育実習」を中心に据えて、それまでに学んだ事柄を実践的に活かし働かせることができる。 “教育現場”に孕まれている複雑性・複層性と魅力とを――生きた人間関係をめぐる可能性を無邪気に称揚することに終始するのではなく、その身に帯びることになりがちな深刻なる保守性を問題化することを通してようやく可視化されてくるところのそれを――捉えた上で、自らめざすべき教員像をかたちづくることことができる。
	後期	「教職実践演習」を中心に据えて、それまでに学んだ事柄を実践的に活かし働かせることができる。

<心理学科>（認定課程：高一種免（公民））

（１）各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	高等学校公民の教員免許状取得のための教職課程において、何をどのように修得しようとするのか、普遍的な目標とともに自分なりの特殊な目標を設定し、それら目標を達成するための履修計画を立てることができる。
	後期	「教職に関する科目」および「教科に関する科目」それぞれについて、内容上基礎的な位置づけをもつであろう科目を――“必修”指定の科目および“選択必修”指定の科目を――重点的に履修する。修得単位数の上では、「その他の必修科目」も含めて（選択）必修指定の科目のうちおよそ三分の一を（約20単位を）修得する。
2年次	前期	「教職に関する科目」および「教科に関する科目」それぞれについて、内容上基礎的な位置づけをもつであろう科目を重点的に履修する。修得単位数の上では、「その他の必修科目」も含めて（選択）必修指定の科目のうちおよそ三分の二を（約40単位を）修得する。
	後期	「教職に関する科目」および「教科に関する科目」それぞれについて、内容上基礎的な位置づけをもつであろう科目を重点的に履修し終える。修得単位数の上では、「教育実習」と「教職実践演習」を除いて（選択）必修指定の科目のすべてを（46単位を）修得する。
3年次	前期	「教職に関する科目」および「教科に関する科目」それぞれについて、内容上発展的な位置づけをもつであろう科目を重点的に履修する。修得単位数の上では、「その他の必修科目」も含めて「教職に関する科目」および「教科に関する科目」それぞれについての最低修得単位数を（68単位を）修得する。
	後期	「教職に関する科目」および「教科に関する科目」それぞれについて、内容上発展的な位置づけをもつであろう科目をさらにいっそう重点的に履修する。平板な“学校知”に堕しがちな「公民科」の既存の体系と、知的探究の所産として獲得される社会科学的・社会哲学的認識と、これら両者の間の懸隔が何故に生じることになるのかについての洞察の初歩を学び取ることができる。教育実習に向けての事前準備の基礎固めができる。≪遅くともこの時期までに最低修得単位数を満たす。≫
4年次	前期	「教育実習」を中心に据えて、それまでに学んだ事柄を実践的に活かし働かせることができる。“教育現場”に孕まれている複雑性・複層性と魅力とを――生きた人間関係をめぐる可能性を無邪気に称揚することに終始するのではなく、その身に帯びることになりがちな深刻なる保守性を問題化することを通してようやく可視化されてくるところのそれを――捉えた上で、自らめざすべき教員像をかたちづることができる。
	後期	「教職実践演習」を中心に据えて、それまでに学んだ事柄を実践的に活かし働かせることができる。

＜文化情報学科＞（認定課程：高一種免（情報））

（１）各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	急速に進歩発展する情報化とその影響を受けながら変化する社会において、人間と文化、社会との新しい豊かな関係を構築するための基本概念、さらに、情報の科学的理解に基づいた基本知識や、現代社会における文化と情報の役割を理解させる。また、教育の基礎理論を学ぶことにより、教育の本質と理念及び教育の対象となる児童生徒の発達と学習上の特徴を理解させる。
	後期	情報力を基礎に国際化と文化共生の時代にふさわしい、幅広い知識と豊かな教養や感性をもち、柔軟なものの見方・考え方を「文化・アーカイブス」「アジア・地域・ツーリズム」「社会・ネットワーク」「情報・コンピューティング」の4つの学びの領域より学ぶとともに各領域における基礎的な知見を理解させながら、情報科学に関わる基礎知識や情報技術による発信とコミュニケーション、検索の基礎技術を実習を交えながら身につけさせる。また、教職の意義、教員の役割、職務内容を理解させる。
2年次	前期	情報技術や情報通信、情報倫理などについての基本事項を理解させるとともに、情報の構造化や表現技術、情報デザイン、情報社会と情報技術との関連に関する授業をコンピュータに触れながら履修するとともに、情報をとりまく様々な視点を整理し、情報に関わる概念や理論の基礎を身につけさせる。また、教育の現場で求められる各種指導法のうち、情報科及び特別活動に関わる内容について理解させる。
	後期	情報技術や情報通信のしくみ、情報社会の展開と関連づけながら理解を深めるとともに、情報通信ネットワークを想定した情報流通のためのコンテンツデザインやコンピュータ言語などの授業を通して、情報デザインや情報技術の基礎などを身につけさせる。また、学校における教育課程（カリキュラム）の構造について理解させる。さらに、情報機器の利用法や教材の活用法を学ぶことにより、より効果の高い指導法を身につける。特に情報科の指導法については、教育実習等実際の教育現場での授業が実施できるようにする。
3年次	前期	現代の情報ネットワーク社会の特徴とそれが社会や文化に与える影響について考えるとともに情報社会における情報システムの概要をとらえ、そこで利用されている様々な情報技術や情報通信の具体的な仕組みを修得する。さらに、様々な組織において利用される情報や情報システムを利用した意思決定などについても理解を深める。また、教育に関する制度や経営事項及び生徒指導の理論と方法について理解させる。
	後期	身近なインターネットをめぐる法律の概要や著作権などの知的財産法をはじめ広く情報技術に関連する法について理解するとともに、情報科担当の教諭にとって不可欠な情報機器の構造や、情報技術を応用した専門的技術を身につけさせる。また、カウンセリングの基礎知識、基本技術を学ぶことにより、教育相談の意義と方法を理解させる。
4年次	前期	卒業研究を通して、文化と情報に関する様々な内容を情報を軸としてとらえ、人間と文化、社会との新しい豊かな関係を築く態度を身につけさせるとともに、教育実習の事前指導及び実習の経験を踏まえ、効果的な指導法や、児童生徒とのコミュニケーション技術等の研究を行うことによって、教職の現場における実践的な指導ができるようになる。
	後期	卒業研究を完成させる過程を通して、情報の科学的理解に基づき、情報の視点から人間と文化、社会との新しい豊かな関係を築く力を身につけるとともに、教育実習終了後の反省や、実践形式の演習等を通して、学校現場では何が教師に求められ、どのように行動しなければならないのかを理解させる。自身の指導力の実際、教職に対する考え方等について総括できるようにする。

<メディア情報学科> (認定課程：高一種免 (情報))

(1) 各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	急速に進歩発展するメディア及びその影響を受けながら変化する社会と人間行動に関わる基本概念、さらに、情報リテラシーの基本知識や、現代社会における文化と情報の役割を理解させる。また、教育の基礎理論を学ぶことにより、教育の本質と理念及び教育の対象となる児童生徒の発達と学習上の特徴を理解させる。
	後期	メディアの影響を受ける社会と人間行動、メディアの主たる担い手であるマスメディアについて、それぞれに対応する専門領域の知見を理解させながら、情報科学に関わる基礎知識や情報発信と情報分析の基礎技術を実習を交えながら身につけさせる。また、教職の意義、教員の役割、職務内容を理解させる。
2年次	前期	情報通信のしくみや情報倫理についての基本事項を理解させるとともに、制作や情報解析の授業を中心に、情報メディアと分析の初歩的なレベルでの利用技術を身につけさせる。また、教育の現場で求められる各種指導法のうち、情報科及び特別活動に関わる内容について理解させる。
	後期	情報通信のしくみや情報倫理について、情報社会の展開と関連づけながら理解を深めるとともに、インターネットを想定したコンテンツ制作やコンピュータ言語の授業を通して、デザインとプログラミングの技術を身につけさせる。また、学校における教育課程（カリキュラム）の構造について理解させる。さらに、情報機器の利用法や教材の活用法を学ぶことにより、より効果の高い指導法を身につける。特に情報科の指導法については、教育実習等実際の教育現場での授業が実施できるようにする。
3年次	前期	メディア社会が人間行動に与える影響を心理学的な観点から理解させ、さらに現代の情報ネットワーク社会の特徴とそれが職業のあり方に与える影響について理解させるとともに、テレビ番組を含むデジタルコンテンツの制作技術を理論と実践を交えながら身につけさせる。また、教育に関する制度や経営事項及び生徒指導の理論と方法について理解させる。
	後期	さまざまな組織や集団及び職業の世界で、どのように情報利用が行われ、どのような問題が生じているのかを理解させる。それとともに、情報科担当の教諭にとって不可欠な情報機器の構造や、情報分析と制作の専門的技術を身につけさせる。また、カウンセリングの基礎知識、基本技術を学ぶことにより、教育相談の意義と方法を理解させる。
4年次	前期	卒業研究を通して、メディアと情報に関する科学的理解の態度を身につけさせるとともに、教育実習の事前指導及び実習の経験を踏まえ、効果的な指導法や、児童生徒とのコミュニケーション技術等の研究を行うことによって、教職の現場における実践的な指導ができるようになる。
	後期	卒業研究を完成させる過程を通して、メディアと情報に関する科学的理解の集大成を目標とするとともに、教育実習終了後の反省や、実践形式の演習等を通して、学校現場では何が教師に求められ、どのように行動しなければならないのかを理解させる。自身の指導力の実際、教職に対する考え方等について総括できるようにする。

＜現代マネジメント学科＞（認定課程：中一種免（社会））

（1）各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	知識基盤社会化、グローバル化を踏まえ、日本国憲法の理解をもとに、現代の政治に関する基礎的な知識を修得させる。また、日本や世界の歴史に関する基本的な内容ならびに地理に関する基本的・応用的な内容を理解させるとともに、宗教についての学習を通して、倫理や公共心に関する認識を高めさせる。さらに、教育の基礎理論を学ぶことにより、教育の本質と理念及び教育の対象となる生徒の発達と学習上の特徴を理解させる。
	後期	前期に学習した日本国憲法の理解の上に立ち、民法について学習し、社会における民事上のルールについて認識させる。また、現代の経済に関する基礎的な知識を修得させ、市民と経済を取り巻く事象を適切に解釈できるようにさせるとともに、日本や世界の歴史に関する応用的な内容を理解させる。さらに、教職の意義、教員の役割、職務内容などについても認識させ、教育に関する制度をはじめ、社会的、経営的事項などについても理解を深めさせる。
2年次	前期	1年次に学習した法律、政治、経済、歴史に関する基礎的な知識を踏まえ、行政や金融の基礎について習得させ、我が国の政治、経済の特徴について認識させるとともに、比較の視点から、西欧の現代政治などについても理解を深めさせる。また、教育の現場で求められる各種指導法のうち、地理、歴史、公民分野及び特別活動に関わる基礎的な内容について学習させ、具体的な指導方法を身につけさせる。さらに、道徳教育の指導に必要な実践的能力についても修得させる。
	後期	前期に学習した行政、金融、我が国の政治、経済の特徴、西欧の現代政治などに関して、引き続き、応用・発展的な内容を理解させる。また、学校における教育課程（カリキュラム）の構造について認識させるとともに、情報機器の利用法や教材の活用法を学ぶことにより、より効果の高い指導法を身につけさせる。さらに、地理、歴史、公民分野の指導法については、教育実習等、実際の教育現場での授業ができるように、実践的な知識や技術を高めさせる。
3年次	前期	2年次までの学習内容を踏まえ、法律、政治、社会、経済、歴史に関する専門的な知識の深化をはかる。特に、国際政治、国際経済に関する理解を深めさせるとともに、自治体法や消費者法、欧米の政治、資源経済などをはじめ、都市経済、経済分析、ジェンダーに関する基礎理論など、多様な個別分野における知識を修得させる。また、介護等体験により、社会福祉に関する基礎的な知識や要支援者とのコミュニケーションに必要な態度を身につけさせる。
	後期	前期に引き続き、法律、政治、社会、経済、歴史に関する専門的な知識の深化をはかる。特に、国際法に関する理解を深めさせるとともに、国際政治史や国際機構、人権、租税法、地方行財政、地域計画などをはじめ、都市経済、経済分析、ジェンダーに関する応用理論など、多様な個別分野における知識を理解させる。また、生徒指導や教育相談に必要な基礎知識および基本技能を修得させるとともに、前期に引き続き、介護等体験を実施し、社会福祉に関する基本的な知識や態度を身につけさせる。さらに、次年度の教育実習に備え、心構えや事前の準備について理解させる。
4年次	前期	法律、政治、経済、社会、歴史などの分野のなかから、各自の興味関心に応じたテーマを設定して卒業研究を行い、社会的事象について、主体的に考え、調査し、課題の解決をめざす態度を身につけさせる。また、教育実習の事前指導及び実習の経験を踏まえ、効果的な指導法や、生徒とのコミュニケーション技術等の研究を行うことによって、教職の現場における実践的な指導ができるようにする。
	後期	卒業研究を完成させる過程を通して、社会に関する事象の科学的理解について集大成をはかる。また、教育実習終了後の反省やまとめを通して、学校現場では何が教師に求められ、どのように行動しなければならないのかを再認識させるとともに、各自の教員としての指導上の能力とそこにみる課題を自覚し、教職に対する考え方や実践的な知識・技能について総括できるようにする。

＜現代マネジメント学科＞（認定課程：高一種免（公民））

（１）各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	知識基盤社会化、グローバル化を踏まえ、日本国憲法の理解をもとに、現代の政治に関する基礎的な知識を修得させる。また、宗教についての学習を通して、倫理や公共心に関する認識を高めさせる。さらに、教育の基礎理論を学ぶことにより、教育の本質と理念及び教育の対象となる生徒の発達と学習上の特徴を理解させる。
	後期	前期に学習した日本国憲法の理解の上に立ち、民法について学習し、社会における民事上のルールについて認識させる。また、現代の経済に関する基礎的な知識を修得させ、市民と経済を取り巻く事象を適切に解釈できるようにさせる。さらに、教職の意義、教員の役割、職務内容などについても認識させ、教育に関する制度をはじめ、社会的、経営的事項などについても理解を深めさせる。
2年次	前期	1年次に学習した法律、政治、経済に関する基礎的な知識を踏まえ、行政や金融の基礎について修得させ、我が国の政治、経済の特徴について認識させるとともに、比較の視点から、西欧の現代政治などについても理解を深めさせる。また、教育の現場で求められる各種指導法のうち、公民分野及び特別活動に関わる基礎的な内容について学習させ、具体的な指導方法を身につけさせる。
	後期	前期に学習した行政、金融、我が国の政治、経済の特徴、西欧の現代政治などに関して、引き続き、応用・発展的な内容を理解させる。また、学校における教育課程（カリキュラム）の構造について認識させるとともに、情報機器の利用法や教材の活用法を学ぶことにより、より効果の高い指導法を身につけさせる。さらに、公民分野の指導法については、教育実習等、実際の教育現場での授業ができるように、実践的な知識や技術を高めさせる。
3年次	前期	2年次までの学習内容を踏まえ、法律、政治、社会、経済に関する専門的な知識の深化をはかる。特に、国際政治、国際経済に関する理解を深めさせるとともに、自治体法や消費者法、欧米の政治、資源経済などをはじめ、都市経済、経済分析、ジェンダーに関する基礎理論など、多様な個別分野における知識を修得させる。
	後期	前期に引き続き、法律、政治、社会、経済に関する専門的な知識の深化をはかる。特に、国際法に関する理解を深めさせるとともに、国際政治史や国際機構、人権、租税法、地方行財政、地域計画などをはじめ、都市経済、経済分析、ジェンダーに関する応用理論など、多様な個別分野における知識を理解させる。また、生徒指導や教育相談に必要な基礎知識および基本技能を修得させる。さらに、次年度の教育実習に備え、心構えや事前の準備について理解させる。
4年次	前期	法律、政治、経済、社会などの分野のなかから、各自の興味関心に応じたテーマを設定して卒業研究を行い、社会的事象について、主体的に考え、調査し、課題の解決をめざす態度を身につけさせる。また、教育実習の事前指導及び実習の経験を踏まえ、効果的な指導法や、生徒とのコミュニケーション技術等の研究を行うことによって、教職の現場における実践的な指導ができるようにする。
	後期	卒業研究を完成させる過程を通して、社会に関する事象の科学的理解について集大成をはかる。また、教育実習終了後の反省やまとめを通して、学校現場では何が教師に求められ、どのように行動しなければならないのかを再認識させるとともに、各自の教員としての指導上の能力とそこにみる課題を自覚し、教職に対する考え方や実践的な知識・技能について総括できるようにする。

＜現代マネジメント学科＞（認定課程：高一種免（商業））

（１）各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	知識基盤社会化、グローバル化を踏まえ、学部の必修科目「現代マネジメント入門」の履修を通して、企業や国際社会、市場取引などに関するマネジメントの基礎的な知識を理解させ、商業の指導に必要な知識の基盤を形成させる。また、教育の基礎理論を学ぶことにより、教育の本質と理念及び教育の対象となる生徒の発達と学習上の特徴を理解させる。
	後期	前期に学習した現代社会のマネジメントに関する理解の上に立ち、現代経営の基礎的な知識を修得させるとともに、企業の経営戦略に必要な創造性を身に付けさせる。また、簿記に関する基本的な知識や技術について理解させ、会計学の基盤となる能力を修得させる。さらに、教職の意義、教員の役割、職務内容などについても認識させ、教育に関する制度をはじめ、社会的、経営的事項などについても理解を深めさせる。
2年次	前期	1年次に学習したマネジメント、経営、簿記に関する基礎的な知識を踏まえ、経営管理や会計学の基礎について修得させる。特に、経営管理の歴史や体系、財務会計の基礎理論を理解させ、ビジネスマインドとアカウントマインドを身に付けさせる。また、教育の現場で求められる各種指導法のうち、商業及び特別活動に関わる基礎的な内容について学習させ、具体的な指導方法を修得させる。
	後期	前期に学習した経営管理や会計学などに関して、引き続き、応用・発展的な内容を理解させる。特に、これからの経営管理における諸課題について確認させ、会計の実践的なスキルを修得させる。また、学校における教育課程（カリキュラム）の構造について認識させるとともに、情報機器の利用法や教材の活用法を学ぶことにより、より効果の高い指導法を身に付けさせる。さらに、商業科の指導法や職業指導の学習を通して、教育実習等、実際の教育現場での授業ができるように、実践的な知識や技術を高めさせる。
3年次	前期	2年次までの学習内容を踏まえ、ビジネスや会計などに関する専門的な知識の深化をはかる。特に、中小企業経営、商品開発、会計情報、原価計算などに関する理解を深めさせるとともに、マーケティング、生産管理、税務会計などに関する基礎理論など、多様な個別分野における知識を修得させる。また、インターンシップに必要な職場や企業経営に関するケーススタディなどを通して、職業に関する実践的な態度を身につけさせる。
	後期	前期に引き続き、ビジネスや会計などに関する専門的な知識の深化をはかる。特に、国際経営、経営組織、マネジメント実務などに関する理解を深めさせるとともに、マーケティング、生産管理、税務会計などに関する応用理論など、多様な個別分野における知識を修得させる。また、複数の実務家による体験談や情報提供を通して、現代の企業経営に関する実践的な知識や態度を身につけさせる。さらに、次年度の教育実習に備え、心構えや事前の準備について理解させる。
4年次	前期	経営、経済などの分野のなかから、各自の興味関心に応じたテーマを設定して卒業研究を行い、商業的事象について、主体的に考え、調査し、課題の解決をめざす態度を身につけさせる。また、教育実習の事前指導及び実習の経験を踏まえ、効果的な指導法や、生徒とのコミュニケーション技術等の研究を行うことによって、教職の現場における実践的な指導ができるようにする。
	後期	卒業研究を完成させる過程を通して、商業に関する事象の科学的理解について集大成をはかる。また、教育実習終了後の反省やまとめを通して、学校現場では何が教師に求められ、どのように行動しなければならないのかを再認識させるとともに、各自の教員としての指導上の能力とそこにみる課題を自覚し、教職に対する考え方や実践的な知識・技術について総括できるようにする。

<子ども発達学科> (認定課程：幼一種免)

(1) 各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	教師となるために4年間の履修計画や目標を立て、必要な知識・技能・経験・心構え等の基礎を身につける。教職カリキュラムの柱となる教育学や教育心理学、発達心理学や幼児教育論領域の基礎を修得するとともに、附属幼稚園・附属小学校・併設中学校高等学校での初歩的な観察実習を経験する。外国語コミュニケーションやピアノの基礎技能・コンピュータリテラシーについての基礎を培うとともに、音楽や図画工作といった一部の小学校教科や保育指導法（環境）についても修得する。
	後期	教師となるための基礎である幅広い教養を身につけ、日本国憲法や教育法規・教育制度の基礎知識、教育社会学の基礎を修得する。教師という仕事や教師に必要な資質や人間性についての理解を深める。外国語コミュニケーションやピアノの基礎技能・コンピュータリテラシーについての基礎を培うとともに、幼児理解の理論と方法において幼児に対する総合的な理解を深める。体育といった一部の小学校教科や保育指導法（言葉・健康）についても基礎を修得する。附属幼稚園でプレ実習体験をもつ。
2年次	前期	幼稚園教育要領や教育課程の編成方法、教育方法・技術の基礎を身につけ、小学校音楽・図画工作・体育といった実技教科の指導法、また、幼稚園のより応用的な保育指導法（造形や言語領域の表現）について修得し、幼稚園教諭に必要な資質を高めていく。
	後期	幼稚園の保育指導法（人間関係）や音楽表現の応用的な指導法、さらに深い専門的知識・技能の修得を通して、幼稚園教諭に必要な資質を高めていく。
3年次	前期	幼児心理学並びに保育内容全体についての理解を深めるとともに、教育相談の知識や技能を修得する。ケースメソッドⅠを通して、現場に即した多面的な教育課題の認識と対応力を身につける。さらに、模擬授業演習を通して、実際の授業の方法を実践的に学んでいく。3年次後期に予定している教育実習のために事前指導により、準備を進める。
	後期	保育職について、又、子どもの発達支援の方法について理解を深める。ケースメソッドⅡを通して、現場に即した教育課題の認識を掘り下げ、対応力の深化を図る。教育実習により、幼児教育についての実践的な知識・体験をもつ。
4年次	前期	2回目の教育実習により、幼児教育についての実践的な知識・体験を深め、教師としての自覚を培う。卒業研究、教員採用試験といったそれまで学んできたことの総仕上げに向けて、進んでいく。
	後期	卒業研究に取り組みながら、4年間の教員養成の振り返りと経験・知識の集大成としての教職実践演習に取り組み、将来の教師としての自己認識と自己形成力を深める。

<子ども発達学科> (認定課程：小一種免)

(1) 各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	教師となるために4年間の履修計画や目標を立て、必要な知識・技能・経験・心構え等の基礎を身につける。教職カリキュラムの柱となる教育学や教育心理学領域の基礎を修得するとともに、附属幼稚園・附属小学校・併設中学校高等学校での初歩的な観察実習を経験する。外国語コミュニケーションやピアノの基礎技能・コンピュータリテラシーについての基礎を培うとともに、音楽や図画工作といった一部の小学校教科についても基礎固めを始める。
	後期	教師となるための基礎となる幅広い教養を身につけ、日本国憲法や教育法規・教育制度の基礎知識、教育社会学の基礎を修得するとともに、教師という仕事や教師に必要な資質や人間性についての理解を深める。外国語コミュニケーションやピアノの基礎技能・コンピュータリテラシーについての基礎を培うとともに、体育や国語といった一部の小学校教科についても基礎を修得する。
2年次	前期	小学校学習指導要領や小学校のカリキュラムの編成方法、授業を組み立てるために基礎となる教育方法・技術の基礎を身につけ、小学校算数・社会・理科の教科内容や音楽・図画工作・体育といった実技教科の指導法について修得する。広い教養を身につけるとともに、小学校教諭に必要な資質をさらに高めていく。
	後期	小学校家庭科や生活科の教科内容を修得するとともに、国語・算数・理科・社会といった教科の指導法についての基礎を修得する。さらに広い教養を身につけるとともに、小学校教諭に必要な資質を高めていく。
3年次	前期	小学校生活科や家庭科の指導法、外国語活動の時間、小学校の道徳の授業や特別活動の指導法、生徒指導や教育相談といった小学校における教科以外の指導方法について修得する。さらに、実際の授業のやり方を実践的に身につける。3年次後期あるいは4年前期に予定している教育実習のための事前指導により、教育実習のための準備を進める。
	後期	介護等体験や教育実習と言った実際の学校や社会福祉施設の現場体験や授業の実施体験を持ち、実践的な知識・体験を深めていく。
4年次	前期	教育実習、卒業研究、教員採用試験といったそれまで学んできたことの総仕上げに向けて、進んでいく。
	後期	卒業研究の仕上げおよび教職実践演習への取り組みにおいて、4年間の学びを振り返り、経験・知識の集大成をはかる。

<子ども発達学科> (認定課程：中一種免(数学))

(1) 各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	教師となるために4年間の履修計画や目標を立て、必要な知識や技能、経験、心構え等の基礎を身につける。教職カリキュラムの柱となる教育学や教育心理学領域の基礎を修得するとともに、附属幼稚園、附属小学校、併設中学校高等学校での初歩的な観察実習を経験する。外国語コミュニケーションやコンピュータリテラシーについての基礎を培うとともに、線形代数学や微分積分学、確率論・統計学といった数学の基礎能力を培う。
	後期	教師となるための基礎となる幅広い教養を身につけ、日本国憲法や教育法規、教育制度の基礎知識、教育社会学の基礎を修得するとともに、教師という仕事や教師に必要な資質や人間性についての理解を深める。外国語コミュニケーションやコンピュータリテラシーについての基礎を培うとともに、線形代数学や微分積分学、コンピュータ概論といった数学の基礎能力を培う。
2年次	前期	線形代数学や微分積分学についての理解を深める。また中学校・高等学校数学科の目標や具体的なカリキュラムとその構成原理についての基礎を修得する。
	後期	線形代数学および微分積分学の基礎の上に代数学、幾何学、解析学の基礎的内容を修得する。また中学校数学科における教育内容について理解し、その学習指導の方法や技術について修得する。
3年次	前期	代数学、幾何学、解析学などの諸領域における標準的な内容を修得するとともに、数学史あるいは現代数学の対象・方法についての理解を深める。また、中学校数学科と小学校算数科、高等学校数学科必修科目との系統性を意識しながら、授業実践力を身に付ける。
	後期	大学で学んだ数学についての総合的理解を深めるとともに、中学校数学科における評価方法について、数学教育学の知見を踏まえながら修得する。また小学校での教育実習を通じて、教育現場における実践的経験を積む。
4年次	前期	大学で学んだ数学を踏まえて、中学校数学科の教育内容と教材について再検討するとともに、教育実習や卒業研究を通じて数学の学習指導に関してさらに考察し、理論と実践の両側面からの理解をより一層深める。
	後期	卒業研究の仕上げおよび教職実践演習への取り組みを通じて、4年間の学びを振り返り、経験の蓄積と知識の獲得について集大成をはかる。

<子ども発達学科> (認定課程：高一種免 (数学))

(1) 各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	教師となるために4年間の履修計画や目標を立て、必要な知識や技能、経験、心構え等の基礎を身につける。教職カリキュラムの柱となる教育学や教育心理学領域の基礎を修得するとともに、附属幼稚園、附属小学校、併設中学校高等学校での初歩的な観察実習を経験する。外国語コミュニケーションやコンピュータリテラシーについての基礎を培うとともに、線形代数学や微分積分学、確率論・統計学といった数学の基礎能力を培う。
	後期	教師となるための基礎となる幅広い教養を身につけ、日本国憲法や教育法規、教育制度の基礎知識、教育社会学の基礎を修得するとともに、教師という仕事や教師に必要な資質や人間性についての理解を深める。外国語コミュニケーションやコンピュータリテラシーについての基礎を培うとともに、線形代数学や微分積分学、コンピュータ概論といった数学の基礎能力を培う。
2年次	前期	線形代数学や微分積分学についての理解を深める。また中学校・高等学校数学科の目標や具体的なカリキュラムとその構成原理についての基礎を修得する。
	後期	線形代数学および微分積分学の基礎の上に代数学、幾何学、解析学の基礎的内容を修得する。また高等学校数学科における教育内容について理解し、その学習指導の方法や技術について修得する。
3年次	前期	代数学、幾何学、解析学などの専門領域における標準的な内容を修得するとともに、数学史あるいは現代数学の対象・方法についての理解を深める。また、高等学校数学科、中学校数学科、そして大学教養レベルの数学的内容との系統性を意識しながら、授業実践力を身に付ける。
	後期	大学で学んだ数学についての総合的理解を深めるとともに、高等学校数学科における評価方法について、数学教育学の知見を踏まえながら修得する。また小学校での教育実習を通じて、教育現場における実践的経験を積む。
4年次	前期	大学で学んだ数学を踏まえて、高等学校数学科の教育内容と教材について再検討するとともに、教育実習や卒業研究を通じて数学の学習指導に関してさらに考察し、理論と実践の両側面からの理解をより一層深める。
	後期	卒業研究の仕上げおよび教職実践演習への取り組みを通じて、4年間の学びを振り返り、経験の蓄積と知識の獲得について集大成をはかる。

<子ども発達学科> (認定課程：中一種免（音楽）)

(1) 各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	教師となるために4年間の履修計画や目標を立て、必要な知識・技能・経験・心構え等の基礎を身につける。教職カリキュラムの柱となる教育学や教育心理学領域の基礎を修得するとともに、附属幼稚園・附属小学校・併設中学校高等学校での初歩的な観察実習を経験する。外国語コミュニケーションやピアノの基礎技能・コンピュータリテラシーについての基礎を培うとともに、声楽概論やピアノ概論といった理論的基礎やソルフェージュといった音楽の基礎能力を培う。
	後期	教師となるための基礎となる幅広い教養を身につけ、日本国憲法や教育法規・教育制度の基礎知識、教育社会学の基礎を修得するとともに、教師という仕事や教師に必要な資質や人間性についての理解を深める。外国語コミュニケーションやピアノの基礎技能・コンピュータリテラシーについての基礎を培うとともに、音楽理論や器楽概論といった理論や基礎知識を修得するとともに、合唱についても基礎を修得する。
2年次	前期	ピアノやピアノ伴奏法といったピアノの演奏技術および、声楽、器楽等について、能力を高めるとともに、音楽史や日本やアジアの音楽についての理論・知識を修得し、中学校の音楽の指導法についての基礎を身につける。
	後期	ピアノや声楽・器楽等の演奏技術をさらに高めるとともに、日本の音楽（声楽）や西洋の音楽史を修得することで、演奏技術とともに音楽に対する理論や知識の幅を広げていく。中学校音楽の指導法についての基礎を修得する。中学校学習指導要領やカリキュラムの編成方法や、授業方法や授業技術を身につける。
3年次	前期	和声や編曲方法を含む作曲法の基礎を修得するとともに、ピアノや声楽や器楽といった専攻分野の技術を高めていく。さらに、実際の授業のやり方を実践的に学んでいく。
	後期	和声や編曲方法を含む作曲法の基礎を修得するとともに、ピアノや声楽や器楽といった専攻分野の技術を高めていく。中学校の道徳の指導法や特別活動や生徒指導・進路指導、教育相談について修得する。介護等体験や教育実習と言った実際の学校や社会福祉施設の現場体験や授業の実施体験を持ち、実践的な知識・体験を深めていく。
4年次	前期	教育実習、卒業演奏・卒業研究、教員採用試験といったそれまで学んできたことの総仕上げに向けて、進んでいく。
	後期	卒業演奏・卒業研究の仕上げに向けて取り組みながら、4年間の教員養成の振り返りと経験・知識の集大成としての教職実践演習に取り組んでいく。

<子ども発達学科> (認定課程：高一種免（音楽）)

(1) 各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	教師となるために4年間の履修計画や目標を立て、必要な知識・技能・経験・心構え等の基礎を身につける。教職カリキュラムの柱となる教育学や教育心理学領域の基礎を修得するとともに、附属幼稚園・附属小学校・併設中学校高等学校での初歩的な観察実習を経験する。外国語コミュニケーションやピアノの基礎技能・コンピュータリテラシーについての基礎を培うとともに、声楽概論やピアノ概論といった理論的基礎やソルフェージュといった音楽の基礎能力を培う。
	後期	教師となるための基礎となる幅広い教養を身につけ、日本国憲法や教育法規・教育制度の基礎知識、教育社会学の基礎を修得するとともに、教師という仕事や教師に必要な資質や人間性についての理解を深める。外国語コミュニケーションやピアノの基礎技能・コンピュータリテラシーについての基礎を培うとともに、音楽理論や器楽概論といった理論や基礎知識を修得するとともに、合唱についても基礎を修得する。
2年次	前期	ピアノやピアノ伴奏法といったピアノの演奏技術、および声楽や器楽等について、能力を高めるとともに、音楽史や日本やアジアの音楽についての理論・知識を修得し、高等学校の音楽の指導法についての基礎を身につける。高等学校学習指導要領やカリキュラムの編成方法や、授業方法や授業技術を身につける。
	後期	ピアノや声楽・器楽等の演奏技術をさらに高めるとともに、日本の音楽（声楽）や西洋の音楽史を修得することで、演奏技術とともに音楽に対する理論や知識の幅を広げていく。高等学校の音楽の指導法についての基礎を修得する。高等学校の学習指導要領やカリキュラムの編成方法や、授業方法や授業技術を身につける。
3年次	前期	和声や編曲方法を含む作曲法の基礎を修得するとともに、ピアノや声楽や器楽といった専攻分野の技術を高めていく。さらに、実際の授業のやり方を実践的に学んでいく。
	後期	和声や編曲方法を含む作曲法の基礎を修得するとともに、ピアノや声楽や器楽といった専攻分野の技術を高めていく。高等学校の特別活動や生徒指導・進路指導、教育相談について修得する。介護等体験や教育実習と言った実際の学校や社会福祉施設の現場体験や授業の実施体験を持ち、実践的な知識・体験を深めていく。
4年次	前期	教育実習、卒業演奏・卒業研究、教員採用試験といったそれまで学んできたことの総仕上げに向けて、進んでいく。
	後期	卒業演奏・卒業研究の仕上げに向けて取り組みながら、4年間の教員養成の振り返りと経験・知識の集大成としての教職実践演習に取り組んでいく。

<看護学科>（認定課程：養教一種免）

（１）各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	養護教諭の基礎的教養としての日本国憲法、外国語などを履修し、養護教諭としての基礎的能力を身につける。また養護教諭の専門的科目としての看護学や解剖学の理論を通して養護教諭としての基礎的能力を身につける。
	後期	養護教諭の基礎的教養としての外国語などを履修し、養護教諭としての基礎的能力を高める。また健康相談活動の理論や栄養学、基礎看護技術学についての理論の学習や演習を通して、養護教諭の活動の基礎的能力を身につける。
2年次	前期	養護教諭の活動を理解するとともに、公衆衛生学、栄養治療論、微生物学、免疫学など養護教諭の活動対象の基礎的理解を深める。また、教育の基礎理論を学ぶことにより、教育の本質と理念及び教育の対象となる児童生徒の発達と学習上の特徴を理解する。さらに教職の意義、教員の役割、職務内容を理解し、教職の基礎的能力を身につける。
	後期	学校保健が地域保健の一環であることを意識させるために、疫学、地域看護活動実践論、健康相談活動の方法としてのカウンセリング論、医療薬理学、精神看護支援論についての理解、さらに小児に関する看護論の理解を深めて養護教諭の専門的能力を身につける。また、教育に関する制度や経営事項及び生徒指導の理論と方法について理解する。さらに、学校における教育課程（カリキュラム）の構造について、さらには、情報機器の利用法や教材の活用法を学ぶことにより、より効果の高い指導法を身につける。
3年次	前期	保健福祉行政論や地域健康教育論など、養護教諭の活動を地域保健の視点から理解できる能力を身につける。また、教育の現場で求められる各種指導法のうち、特別活動に関わる内容について理解させ、教職の能力を身につける。
	後期	臨床実習を通して、学校保健や地域保健における看護の対象の理解と技術の深化に努める。それとともに、養護教諭にとって不可欠な情報機器の構造や、情報分析と制作の専門的技術を身につける。また、カウンセリングの基礎知識、基本技術を学ぶことにより、教育相談の意義と方法を理解させ養護教諭の教育現場で求められる能力の基礎を身につける。
4年次	前期	臨床実習と卒業研究を通して、看護学における科学的理解の態度を身につけさせるとともに、教育実習の事前指導及び実習の経験を踏まえ、効果的な指導法や、児童生徒とのコミュニケーション技術等の研究を行うことによって、教職の現場における実践的な指導ができるようになる。
	後期	卒業研究を完成させる過程を通して、学校保健と地域保健の視点から看護学の各領域の知見を科学的・総合的に理解することを目標とするとともに、教育実習終了後の反省や、実践形式の演習等を通して、学校現場では何が教師に求められ、どのように行動しなければならないのかを理解する。自身の指導力の実際、教職に対する考え方等について総括できるようにする。